

## 2016年度 韓国社会福祉学会春季学術大会報告

### 韓国社会福祉学会春季学術大会での自由研究発表について（報告）

高橋康史

筑波大学大学院／日本学術振興会

今回の研究題目は、「犯罪者を親にもつ子どもの回復に関する研究：ナラティブ・アプローチの観点から」でした。この報告は、2015年11月6日に韓国・国会議員会館で行われた「日・韓 加害者の子ども及び家族の支援に関する課題の政策セミナー」を受け、犯罪者を親にもつ子どもの回復に向けては「当事者の声」にもとづくソーシャルワーク実践が重要である点を再認識したことが背景にあります。

ところで、私は韓国語で研究発表をする語学能力がありませんでした。しかし、本学会のサービスによる通訳者（翻訳者）からのサポートを受けることによって、学会発表を終えることができました。さらに、学会を運営されている韓国の先生方や通訳者の方は、研究のことだけでなく、私の韓国の旅が快適になるような情報をくださるなど多くのお気遣いをいただきました。

こうしたサポートによって、今回の報告では重要な研究上の課題を確認することができ、実のあるものになりました。報告後には、担当の先生から研究発表に対する詳細なコメントやご指摘を受ける時間を設けていただいた上で質疑応答にうつりました。さらに、報告終了後も多くの方からさまざまな視点のご質問をいただきました。これらの議論の中心点は、この研究で取り上げた当事者の方のインタビューにおいて「加害者の子ども」としてのナラティブに収まりきれない語りがあったにもかかわらず、私の研究ではその収まりきれない語りが捨象されているというご指摘であり、この点が今後の研究上の課題であることを気づくことが出来ました。

最後に、貴重な発表の機会を設けていただきました国際学術交流促進委員会の先生方、そして、私の「ナラティブ」に対する捉え方の甘さを自覚させられる的確なコメントをいただきました韓国東洋大学のパク・ヒャンギョン先生に、心よりお礼を申し上げます。